別紙口伝 その風姿花伝 七

見え、 であって、だからこそ、 時から老後に至るまでの芸を一度に持つという はとても思え た大切 ときどきに自分が体得した花を、常に今の演技 またあるときには、 かにも臈長けた、 のは、 てきた老練な為手にも見える同じ人が演じ や失うものがあるにせよ、 な年々去来の花をめざし 花と てからでもそれは同じであるが いうものを身につけることを忘れて も し十體を習得 年ごとに去り、 やはりその時ならでは そんな花のある能を演じることができ とんでもなく長 あるときには稚児や若者の の時の為手にも見え、 よ盛んな、 したならば、 てこその ある 能であ のはそう は来る花、 演技 たとえば幼 の中に反 またあると うも 映さ 頃

に演じた能には、 ような達者は た為手のように見え、年老い の頃から父の能を 自分自身も現に見て納得できることで 演じているように見えたと言 見聞きしたことはなく、 の立ち居振る舞いは、 そのような位に達した達者であ そこまでに至った為手という まさしく臈長けた風情があ ほかに見た事も、 いつも見てきた私には、 自然居士を演じた時 人々が からも、 口 亡き父 つ つ \mathcal{O} は、 れば、 で る 亡 父